

### 3 研究のまとめ

#### (1) 研究の成果

本研究では、高等学校における情報モラルへの関心を高め、理解を深める授業実践を行いました。慎重な判断が必要な事例を問題提起し、その問題について個人や班で考えることで、理解が深まると考え研究を進めました。研究の成果は以下のとおりです。

##### ○ 情報モラル教育の充実を図る指導法について

身近な複製やダウンロードを事例に挙げたことで、生徒は著作権侵害が他人事ではないと気付くことにつながり、著作権教育を行う上で有効でした。日常的に行っている行為が、軽率な判断によって大きな問題を引き起こしかねないと気付けたことは著作権への関心が高まったと考えます。法的には問題でなくても、モラル的に問題であるという行為もあり、判断に迷うような題材を扱ったことで、自分の考えだけで判断することの危険性に気付けたことは授業が有効であったと考えられます。

##### ○ 授業実践を通じた、情報モラルへの関心を高める指導法の検証とICT教材について

本研究では、授業で取り上げる内容を生徒の実情に沿った題材にすることで、生徒が興味をもって授業や話し合い活動に参加することを見取ることができました。その結果、情報モラルへの関心を高めることができたと考えます。

また、情報モラルへの関心を高めるためのICT教材として、SKYMENUの投票機能を用いました。SKYMENUの投票機能を使うと、クラス内の意見の分布をリアルタイムで表示することができました。表示された投票結果を見た後は、班での話し合い活動が活発に行われるようになり、SKYMENUの投票機能は生徒が話し合うきっかけづくりとして有効であるということが分かりました。さらに、他者の意見を聞き、意見を変更する生徒数の変化を示すために、話し合う過程においてもSKYMENUの投票機能を用いて投票を行い、画面上に表示しました。こうすることで、一人一人の生徒が意見を再考するきっかけにもなりました。これらのことから、SKYMENUの投票機能は、生徒の思考を深めるICT教材としても有効であったと考えます。

##### ○ 思考力を育む言語活動を取り入れた授業実践について

言語活動を取り入れた、生徒の思考力を育む授業づくりについて検証しました。判断に迷う事象を問題提起し、5～6名の班で話し合い活動を行い、その様子を観察したり、ワークシートの記述内容を分析したりすることで言語活動の効果を探りました。

生徒は言葉を選びながら自分の意見を班員の前で話したり、他者の意見を聞き、再考したりする過程を通して、生徒の思考の深まりを見取ることができました。このような、「話し合い・再考・話し合い」のサイクルにより、著作者の立場に立った意見や法的な観点から考えた意見、他者の意見を加味した意見が出るようになったことから、言語活動を取り入れた授業の実践を通して、その有効性を明らかにすることができました。

ワークシートの記述でも、法的、またはモラル的な観点から取るべき行動について「考える」、「調べる」、「相談する」ことの大切さを書いている生徒が多く見られました。言語活動において意見を話したり、聞いたりすることを通して、生徒の思考を深めることができたと考えます。

## (2) 今後の課題

今後、生活の中で、生徒は様々な問題に直面していきます。このような状況の下で、問題を解決していく能力を生徒に身に付けさせるためには、小学校、中学校、高等学校を通じて思考力を育むための体系的かつ継続的な指導が必要だと考えます。特に、高等学校では情報モラルは、モデルカリキュラムによって指導内容が示されていますが、その内容は多岐にわたり、情報関連の授業だけで教えるには限界があります。他の教科や校務分掌等も含め、高等学校3年間を見通した計画とその教材の開発及び共有が必要であると考えます。

他にも、SKYMENUの投票機能はPowerPointと連動できず、設問を保存しておいて表示させることもできませんでした。今回の授業実践では、操作補助者の協力によりスムーズに授業を展開できました。効果的に授業を進める上で、ICT教材の研究や活用は欠かせません。今後、ICT教材を有効活用していくためにも、操作補助者の配置などの条件整備が望まれます。

また、本研究の授業実践では班での話し合い活動において、一部の生徒に発言が偏り、意見をもっても発言できない生徒が見受けられました。今後、OneNote等を利用し、誰もが意見を書き込めるようにすることや話し合い活動における1班の適正人数の検討など、言語活動の取り入れ方についても実践を重ねていく必要があると考えます。